

れ、一つづつの病氣となり、又同じ病氣でもそれ、軽重があるのであります。それ故その数は(即ち病氣の數)非常に多くなる。剩へ、私の擧げた症候(容體の)は僅に主要なる五種に限つておきましたが、之を、五種に限らず、吐きまか痛みまか不眠まか食慾不良まか、もつと多數の容體を擧げて、それ等多數の症候の順列、組み合せを考へるに、その一つづつが一つの病氣となつて來るのであります。病氣そのものに(即ち病名が定まれば即座に)軽い重いがあるものでもあり、又、同じ一つの病氣の中に軽度の別のあるものでもあり、又々、同じ病氣でも、罹つた子供の體質で軽い重い別れることもあります。

こゝにいふ譯になりますから、容體の多くから成り立つてゐる病氣は仲々に侮り難いものであります。ほんまうに侮り難い病氣か、否、輕蔑してよい病氣かは、いつもその病氣にかゝつてゐる子供々々で違ひますから、その都度お醫者が診察して決定する筈であります。家庭に於ける子供の周圍の方々も雖一應の心得は必要であります。

私の述べたことは、約言すれば、「單一容體怖るべからず、複合容體侮るべからず」といふことになります。

詳しく云へば、しかし、ほんまうにその子供が、單一容體であるが、外に容體はないかといふことを決定するのは、醫師でなければ出來ないことではあります。家庭人

としては、ごく大雜把に單一容體、複合容體といふことにだけでも着眼していただきたくこの一篇を草した次第であります。

保姆先生の健康

子どもを健康に。といつしよに、保姆先生の健康も大切ですね。それは、貴女のためであると共に、子どものためです。子どもをほんとうに丈夫にするには、保姆さんが先づ丈夫でないと思つかしい。

健康は生理的問題であると同時に、心理的問題ですね、先生の顔色が、動作が聲音が、それ以上、精神力が、充分健康でない、子どもも自然弱くなります。

病菌の傳染、その方は私にはよく分らないが、病氣の感じの傳染は、心理的のことです。先生が病菌をもつてゐる。それを子どもに撒きちらしてはたまらない。しかし、陰氣くさい、元氣のない、不健康な心持ちが、周圍の子どもを病氣にすることも、よく考へて置かなければなりません。

薬と手當のことは私には全く分らない。しかし、健康な血色や、健康な笑ひ聲が、子どもの大抵の病氣を治すのに、大きな效力のあることは確かです。幼稚園常備薬として是非そなへて置くべきものです。

受持ちの先生のからだが弱い程、子どもらに氣の毒のことはありません。

(くらはし)